kai

ISSN 0911-5587

楷

岡山大学附属図書館報

OKAYAMA UNIVERSITY
LIBRARY BULLETIN

NO. 29

1999
OCTOBER

21世紀の附属図書館
～資料整備第１次５ヶ年計画の発足にあたって～

岩　見　基　弘

まもなく21世紀を迎えようとする現在、世界と日本は人々の予想を超える急速なスピードで変化しつつあります．また、日本では18才人口は平成４年度をピーク（約200万人）として急激に減少しており、平成12年度にはその3/4まで減少し、その後も減少の続くことが予想され、大学・短期大学への進学率が平成８年度で46.2％に達し、今後50％を越す（入学定員を減らさなければ100％になり得る）ことが確実視されています．従って、入学試験が選抜から選択へと変化していくことが予測され、その選択材料の提供が必要です．これを含め、入学生の多様化、国際化、情報社会化、大学の個性化への国立大学の対応が迫られています．

その中で、時代の変化の方向を見さだめ、社会を知的にリードしていく新しい大学のあり方をめぐって真剣な模索が始まりました．昨年10月に大学審議会は「21世紀の大学像と今後の改革方策について」と題する答申を発表し、各大学が自律的で個性的な理念・目標を定め、その実現に向けて改革方策を具体化するように呼びかけました．これを受けて、岡山大学では、昨年11月から「21世紀の岡山大学構想検討会」と４つの部会（基本構想、組織運営等、学部教育、大学院教育研究）で、21世紀の岡山大学のあり方をめぐる検討が始まり、本年６月にその「中間まとめ」が提示され、これに対する部局等の意見が集約され、本年（度）末に向けて成案をまとめつつあるところです．岡山大学人の心のよりどこ

ろとなりうる21世紀の岡山大学像を策定し、それを本当に実現する改革方策を具体化するためには、全学の英知を結集することが何よりも必要です.

21世紀に日本の各大学が多様化・個性化していく中で、岡山大学がめざすべきは、それぞれの個別研究分野において世界に通用する最先端の研究を遂行する研究中心の大学であると考えます. 同時に各分野の専門研究を基礎としながら、現代社会が提起するさまざまな具体的問題に対応して学際的・総合的な研究を共同で遂行することも必要です.

大学が果たすべき社会的使命は、研究と教育の両面にあります. 研究の発展が結果として質的に高い水準の教育を実現する研究と教育のバランスのとれたあり方を実現すべきであると考えます.

岡山大学が21世紀に研究中心の大学として発展していくためには、大学院を重点とする大学へ組織替えしていくことが必要です. 医科学、自然科学、文化科学の各研究科で重点の置き所は異なりますが、岡山大学大学院には次の4つのことを求められていると考えます. (1) 各個別分野で最先端の研究を遂行する大学として、世界に通用する優れた研究成果を上げ、研究者を養成すること、(2) 社会のニーズに応えうる専門的職業能力を身につけた高度専門職業人を養成すること、(3) 社会人の再学習機能の強化を通じて、地域社会へ生涯学習機会を提供すること、(4) 国際的共同研究や留学生の受け入れを通じて国際社会へ貢献すること、などです.

大学審議会の本年6月の答申『科学技術創造立国を目指す我が国の学術研究の総合的推進について－「知的存在感のある国」を目指して－』の「4　世界水準の研究基盤の整備」の「(4) 学術情報基盤・学術資料の整備」の項において、「(ア) 図書館を含む学術情報基盤、学術資料は、それ自身研究開発的側面があるだけでなく、(a) 研究者間における研究資源及び研究成果の共有、(b) 研究成果の一般社会への発信、啓蒙及び次世代への継承、(c) 研究活動の効率化・安全の確保等に資するため、これらを整備することは、学術研究全体の進展を支える上で極めて重要である.」と述べています. そして、「① 学術情報基盤の整備」において、(ア) 情報ネットワーク、(イ) コンテンツ及びアプリケーション、(ウ) 大学図書館、(エ) 情報関連組織、について詳細に記述されています.

このような知の拠点としての大学の中で図書館の占める位置はますます重要となっています. この間、多くの先人諸氏の努力により、岡山大学附属図書館の21世紀に向けての資料整備第1次5ヶ年計画が策定されました. これは、前年度末の図書館運営委員会において原案が作成され、それが平成11年度最初の評議会（4月開催）で決定され、実施に移されることとなったものです. これを受けて、附属図書館運営委員会の中に、来年度からの二次情報データベースを選定するワーキンググループ、及び共用外国語雑誌を選定する委員会を発足させ、それらの充実と見直しを開始しました. さらに、図書館の電子的機能を強化・充実させるための研究開発室に関する規程（案）が、本年6月の運営委員会で了承され、7月開催の評議会で決定されました. 学長の付託を受けた委員の選任も終わり、これについても検討を開始しています. また、池田家文庫等の貴重資料情報の電子化についても、これまでの関係者の努力で、文部省科学研究費の補助等を受けて本年度も進めることになっています.

情報の創造・収集・発信が求められる情報化社会化、電子化の趨勢の中で、図書館の電子的機能を強化するとともに、岡山大学として、電子情報システムの組織化を考えるべき時でしょう.

（いわみ・もとひろ　附属図書館長）

附属図書館の現状と課題
～自己点検・評価承前～

石　田　常　亞

はじめに

自己点検・評価承前としたのは、全学的な自己点検作業の一部として、図書館についても記述しているものはあったが、他大学に見られるように、図書館独自の評価を行ってはいないので、再度独自の取り組みを行ってみたいと思ったからである.

平成3年の大学改革の大綱以後、大学図書館に関しても、審議会報告「大学図書館機能の強化・高度化の推進について」が出され、その中でも自己点検・評価について要請されている　今後はまた第三者評価を、文部省主導で行う新たな設置機関により行うことが決定された　評価項目事項などが用意され、また違った意味での自己点検・評価が求められ、改善を行い、その報告を継続的に実施することが要請されてくるように思われる　そのような意味でも、今思いつく事柄を断片的に記してみたものである

組織・機構

大学附属図書館の母体は、もともと教養課程の学生のための図書館として出発し、学部学生・教官のためには、各学部図書室などがその役を担っていた　それ以後本学でも、中央図書館制度を採用し、学部図書室の一元化、業務の一元化を図り、今日に至っている.

現在は、中央館（本館)、鹿田分館、資源生物科学研究所分館の3館体制となっているが、物流の一元化、情報の共有化、重複業務の排除などで、更なる業務の改善を追求する必要があると思われる.

大学事務組織機構改革の中で、附属図書館事務部の事務局統合案は、その可否について、従来からも検討の段階を経てきたと思われるが、現在のところは実現性のないものとして、沈静化している　再度人的・財政資源の一元化のもとに、図書館部、学術情報部といった組織、あるいは学内学術情報メディアセンター構想などで新たな機構改革の可否について、再検討を要請される時期がくることもあるのかもしれない.

新キャンパス移転などで新築された図書館群として、機能別の図書館を、中央館とは別に設置する大学も見られるが、本学では中央館所在団地内は1館で、従来の学習図書館機能に加え、研究図書館機能、保存図書館機能、さらには電子図書館機能を備えた総合図書館に発展させていくことが要求されている

図書館サービス

これからの大学図書館サービスは如何にあるべきか、利用者は図書館に何を求めているのかを絶えず模索して行かなければならないところである．社会の変化が余りにも早く、設立母体である大学自体が、如何に様変わりしようとしているのかの見極めを、我々も大学組織の一員としての認識を持たないと、予測がたてにくい時代となってきている.

より良いサービスの前提には、施設、職員、資料という、従来から言われている図書館の3大要素の充実が基本であることは、今日でも変わらない　何れにしても経費があって

のこととなると行き詰まってしまう.「21世紀の大学像と今後の改革方策について」(答申)(平成10年10月）の中でも、学習環境の整備で図書館について言及されており、既設環境、サービスの改善などで今後とも留意すべき事項として挙げられている

中央館では平成9年3月、以前に比して約2倍強の面積を有した建物が実現し、器について暫くは国立大学の中でも自慢しても良いものになっているが、折角出来た新しい器に、どのような良質な資料群を構築させるのかが次の課題であり、勝負どころとなってくる. 利用者にとって満足してもらえるものを整備することが要求されている. 資料整備計画は、従来からも年次計画を立案し、学内予算を獲得しながら整備を行ってきた. ここに新たに「21世紀図書館資料整備第1次5ヶ年計画」を提案し、平成12年度より実行させることを、学内で決めて頂いたのもこのことによる. ここではその計画の中味には触れないが、これからもまだまだ利用者からのアイデアも聴取しながら整備すべく、更に全学的にアピールして行くことが是非必要となってくる.

電子図書館構想

平成8年7月に建議として出された「大学図書館における電子図書館的機能の充実・強化について」をバネにしながら、各大学がこの新しい図書館機能を構築すべく邁進している　まず手初めに、所在目録情報がOPACとして構築され、国内の大学図書館の全蔵書約2億冊以上の目録情報のデータベース化が実現されるよう、各大学での遡及入力が要請されている. 本学でもその財源を毎年学長裁量経費で要求し、配分を受けるといった予算化の途しかないが、文部省よりの電子図書館化構築経費の目処がつくまでは、別に恒常予算化の方法はないものか、探ってみたいところでもある.

目録情報のDB化が、電子図書館への入口となり、さらに所蔵資料の電子化へと進んできている. 勿論貴重資料などは原資料の保存のうえから、利用による摩耗、破損の防止のための代替物が可能となること、更にはインターネットで公開することにより、所蔵館へ赴かなくても何処からでもその情報入手が可能となってきている.

本学でも既にマイクロ化された藩政史料を新たに電子化することも計画している. 現在行っている国絵図類のデジタル化からCD-ROMを作成することにより、運搬、複製・頒布が可能となってきたことは言うまでもない. また一方では、学内での学術的生産物を電子化し、社会へ公開するという役目もあり得る. 学内紀要、学内研究者論文などのデータベース化であり、関係者の了解を得ながら作成し、公開するものである. 本学でも一部着手しているのだが、図書館固有の事業であるかどうかは別として、全学的な学術情報発信機構が出来上がるまでは、図書館で少しずつでも構築して行くかたちとなる. 更には電子文書館へと発展して行くはずである.

高度な電子図書館構築等の環境作りが可能となっても、もはや従来の図書館職員の知識・技術だけでは対応しきれない世界となってきた. 図書館職員の日頃の研修を一層充実させるためにも、専門的研究家集団の指導、援助が必要となってきた. 学内計算機センター（群）との連携協力は必須なこととなり、学内教官に協力を願い、本学でも電子図書館研究開発室を立ち上げたのである. その先には、これも図書館の枠を越えた学内情報発信機構へと発展させて行く足がかりともなり得る. 今学内で検討されている「21世紀の岡山大学構想検討会」の中へ、その構想も持ち込みたいと考えている.

（いしだ・つねつぐ　附属図書館事務部長）

公共性・今日性・機能性が求められる図書館という知的広場

酒　井　峰　男

大学の中枢といえば、それは大学人（学生・教職員）の知的広場としての大学図書館である．通常、大学の図書館は、立地条件の一番よい場所に納まっていて、大学のシンボルとなっている．そして、その図書館を観察すれば、その大学の知的なものへの関心や理解の広さや深さ、また、現代社会における知的なものへの認識のあり方、情報開示への取り組み方等が分かり、その大学の公共性、今日性、機能性が見てとれる．

留学生に各国の大学図書館について聞いてみると、たとえば、韓国の学生は自国の大学図書館は早朝からオープンしていると言う．マレーシアの学生は大学図書館は夜の12時を回っても利用できると言う．他の国では閉館日（岡大では年67日）もここよりずっと少ないようだ．それぞれの国の内外事情はさておいて、単に図書館の『公共性』という面から比較すると、わたしたちの大学図書館に対する考え方、認識の仕方は彼ら彼女らのそれと比べて進んでいるとは言えないような気がする．大学図書館がフルに活用されていれば、それに越したことはないからである．また、アフリカの学生が、日本の大学図書館には英語で書かれた新しい資料が少ないという時、国の成立状況の違いや日本の学校での母国語による教育事情について説明しても、英語の資料なしで研究を成り立たせるのが難しいほとんどのアフリカの院生にとって、資料の収集は、お金さえ出せば、いくらでも整えられるだけに、『今日性』から見た日本の大学のこの点に関する遅れは、目につくに違いない．英語化と国際化（誰にでも分かるような、国際的レベルの共通化）とが直接関係あるとは思わないが、英語を通して情報を得、自分が今いる位置を自分も知り、相手にも知らせるという意味では、英語は必要だと思う．さらに、北米の学生が、自国の大学では在学証明書さえあれば、学部学生は毎回一度に10冊分の、博士課程や教員は20冊分の本をある期限つきで持ち出せると言う時、『機能性』の面での整備がこちらでは遅れているのじゃないかと思わざるを得ない．しかし、広く考えると、これらの問題は、それを支えている国や教員の教育や学問に対する考え方に直結している問題であるように思う．

ここで、留学生の意見や立場を考えつつ、同時に公共性、今日性、機能性を考えて将来の大学図書館像を描いてみると、次のようなものになりそうである．すなわち、社会人も含めて、誰でもいつでも気楽に身分証明書なしで図書館に入れ、自由に見たい本が検索できて、本がある場所が簡単につきとめられ、一度に何冊かの本をあちこちの書棚から持ち出してこられ、それらの本を机に向かって読める場所が近くにあり、見終わったら、本はそのまま机の上に置きっ放しにしておけばよく、コピーしたい場合は階を移動しなくても、また身分証明書がなくてもコピーができ、雑誌やマイクロフィルムの閲覧も充実しており、コンピュータも自由に使えるように台数がそろっており、大学のホームページを開ければ、当日、または近日中に学内で開催されるすべての催しもの（会議、集会等）が一目でわかり、といったような図書館像である．このように、大学図書館が一種の公共的な知的広場のような存在になっていき、同時に、今日性、機能性も高まっていけば、いっそう、誰にでも使いやすい図書館になるのではないかと思う．

（さかい・みねお　留学生センター助教授）

図書館の電子サービスのご紹介

電子情報係

1．はじめに

21世紀を前にして、コンピュータやネットワークが社会のあらゆる分野に波及している中で、大学図書館も利用者へのより高度なサービスを目指して、電子図書館化へと変貌しています．国内でも、これまでに筑波大学、図書館情報大学、京都大学、神戸大学などの図書館が、すでに個々の地域の特色を生かした電子図書館サービスを行っています

岡山大学附属図書館においても、平成10年度に附属図書館運営委員会の下に、電子図書館構想検討委員会を設置・検討を重ね、学内紀要等データベースを中心として、貴重資料データベースや教材情報データベースなどを基本とする「岡山大学電子図書館構想」を平成11年1月にまとめました．

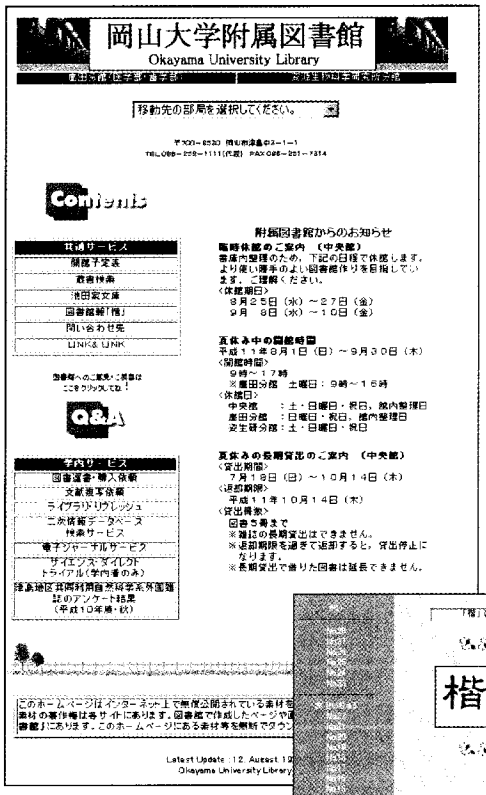
2．図書館ホームページの現状

岡山大学附属図書館における電子図書館機能は、図書館ホームページを機軸にしてサービスしています．岡山大学附属図書館では公式ホームページを、平成7年6月に開設しました．当初は、「図書館概要」、「ライブラリ・リフレッシュ」等の広報を中心に活用していました．平成9年以降は試行錯誤をしながら改訂を行い、平成10年3月からは現在の構成（デザイン）で運用しています．新しい公式ページでは、「開館予定表」、「蔵書検索」、「池田家文庫」、「図書館報『楷』」、「問い合わせ先」、「LINK & LINK」の各サブページを作成しました．学内限定サービスのページとしては、「ライブラリ・リフレッシュ」、「二次情報データベース検索サービス」、「電子ジャーナルサービス」の個々の専用ページを整備してリンクしました．「ライブラリ・リフレッシュ」は学内利用者向けの広報パンフレットの電子版です．「二次情報データベース検索サービス」は学内から世界的にメジャーな二次情報データベースを検索するサービスであり、Biological Abstracts（1997-）、Medline（1966-）、Encyclopedia of Associations、ERIC（1966-）、MLA（1963-）、PsycLIT（1887-）を図書館ホームページから検索できます．「電子ジャーナルサービス」は、約130タイトルもの電子ジャーナルをリスト化して提供しています．更に、9月からはエルゼビア・サイエンスの電子ジャーナル約200誌が全文まで利用可能となりました．

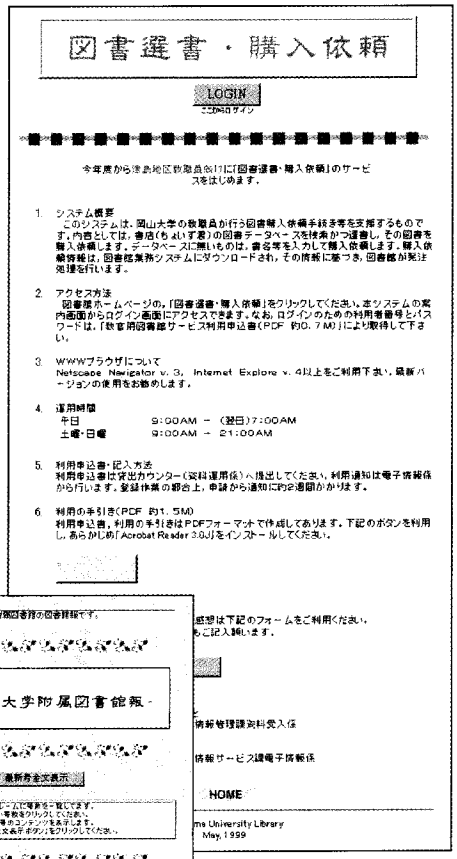
この他にも、平成11年6月からは、オンラインによる「図書選書・購入依頼」、「文献複写依頼」の両サービスを津島地区で開始し、図書館のホームページにも新しいメニューが付け加わりました．特に、図書選書・購入依頼サービスによって津島地区の教官は、研究室にいながらにして図書選書データベースを検索して、そのまま図書館に対して購入依頼ができるようになりました．図書館では前日に申し込みのあったデータを、ファイル転送（ftp）で取り込み、図書館業務パッケージ「Limedio」の一括登録コマンドでデータベースに毎日一回登録しています．サービスを開始して約4ヶ月が過ぎましたが、利用者数は約150名を越えており、毎日約10～15冊程度の申し込みがきています．

図書館ホームページの利用法も、これまでの利用者への一方向的な目的（広報、利用案内等）での利用法から、図書館に対する意見や要望を吸収したり、アンケート調査などの

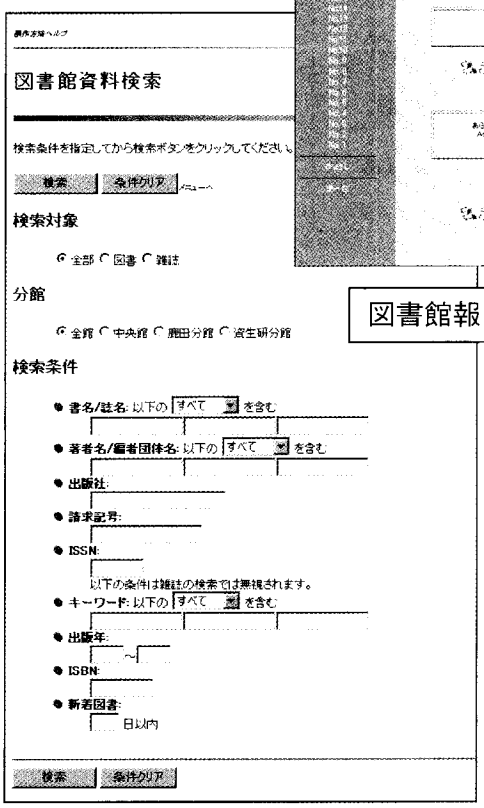
図書館ホームページ



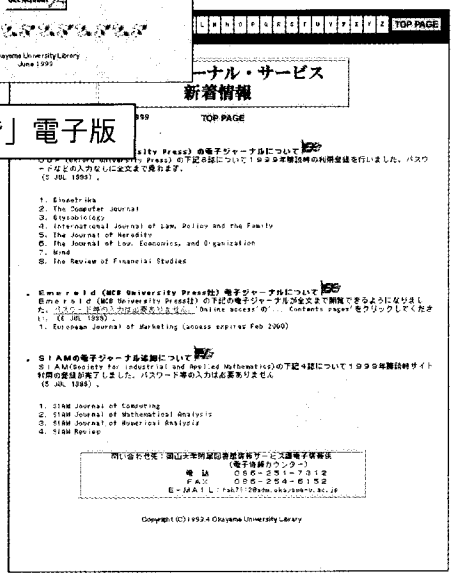
図書選書・購入依頼



図書館報「楷」電子版



蔵書検索



電子ジャーナルサービス

試みも行っています．例えば、平成11年度、平成12年度の津島地区共同利用自然科学系外国雑誌の選定では、津島地区の自然科学系の教官を対象にアンケートを行いました．アンケートの結果は、ホームページから学内限定で公開しました．

このように岡山大学附属図書館では、ホームページの持つ図書館サービスへの重要性を認識しながら、より高度な電子図書館化の実現に向けて努力しています．

3．電子計算機システムの現状

岡山大学附属図書館では、図書館業務、利用者用パソコンの提供、ネットワークを使った二次情報データベース提供サービスなど様々なところで電子計算機を活用しています．平成11年5月からは中央館に留学生用パソコンを6台設置して、学内の留学生にインターネット、電子メールやレポート、論文作成の場を提供しています．

岡山大学附属図書館の電子計算機システムの一覧については、下表にまとめたので参照してください．

	図書館事務 電算化システム	二次情報データベース 検索システム
図書館で運用している サーバ一覧 	①業務サーバ（中央館） SUN　Enterprise250 ﾒﾓﾘｰ：2GB　HD：36.4GB OS　：Solaris2.6 ②OPACサーバ（中央館） Fujitsu　S-7/300U ﾒﾓﾘｰ：512MB　HD：29.4GB OS　：Solaris2.5.1 ③電子図書館サーバ（中央館） Fujitsu　S-7/300U ﾒﾓﾘｰ：256MB　HD：20.3GB OS　：Solaris2.5.1 ④WWWサーバ（中央館） Fujitsu　S-7/300U ﾒﾓﾘｰ：256MB　HD：12.6GB OS　：Solaris2.5.1	①UNIXサーバ（中央館） SUN　Ultra1 ﾒﾓﾘｰ：256MB　HD：30GB OS　：Solaris2.5.1 利用：二次情報データベースサーバ ②NTサーバ（中央館） HP　NetServer LH3 ﾒﾓﾘｰ：256MB　HD：27GB OS　：WindowsNT4.0 Server 利用：二次情報データベースサーバ
図書館で利用の クライアント一覧 	①貸出業務用ワークステーション Fujitsu　S-4/5H ﾒﾓﾘｰ：128MB　HD：2.1GB OS　：Solaris2.5.1 利用：図書貸出 ②業務用パソコン Fujitsu　FMV-5166D8 ﾒﾓﾘｰ：32MB　HD：2.6GB OS　：Windows95 利用：図書館業務、ワープロ等 ③業務用X端末 TAKAOKA　XMiNT CSU RZ2 利用：図書館業務	①利用者向けパソコン NEC　PC-9821Xa/Pa ﾒﾓﾘｰ：24MB　HD：2GB OS　：Windows95、NT4.0 利用：OPAC、ワープロ、インターネット等 ②留学生向けパソコン（中央館） Gateway　PT-450 ﾒﾓﾘｰ：64MB　HD：6GB OS　：WindowsNT4.0 利用：OPAC、ワープロ、インターネット等

※（　）による館名表示のない機器は、中央館、鹿田分館、資源生物科学研究所分館で利用しています。

マスカット

「図書購入等教官説明会」開催

平成11年4月より津島地区の図書資料購入が附属図書館に一元化されるにあたり、平成11年5月11日㈫と14日㈮の2回、「図書購入等教官説明会」を大学院自然科学研究科棟大会議室で開催しました.

両日合わせて200名弱の参加があり、次の事項について説明を行いました. 津島地区図書購入の流れ、津島地区雑誌購入の流れ、全国国立大学に先駆けて実施した書店の選書システムを利用した図書選書・購入依頼システム、津島地区における文献複写依頼のオンライン受付、オンラインシステム利用者ID取得のための「教官用図書館サービス利用申込書」についてです.

今回の一元化の目的は、(1) 購入事務集中化による事務処理効率化、(2) 図書購入の迅速化、(3) 図書資料の共同利用の促進にあり、新システムを軌道に乗せるために関係の係では、大いに努力しています.

中央館オリエンテーション・ガイダンス報告

＜新入生オリエンテーション＞

今年はガイダンス科目による申込が多く、参加人数が昨年の倍になりました.

期　　間：4月9日㈮～23日㈮　※土・日・休館日を除く

内　　容：新入生向け図書館利用案内（ホームページによる利用案内、カード目録の使い方、コンピュータによる学内の図書・雑誌の検索）

参加人数：1,226人（自由参加：325人、授業単位：33組、874人、ガイダンス科目：24組、779人）

＜二次情報データベース・ガイダンス＞

今年度は6月末より、利用者の申込に応じて、希望の二次情報データベースのガイダンスを行っています. 平成11年6月21日㈪～7月31日㈮の実績は下記のとおりです.

利用人数：8グループ（計55人）

対 象 者：教職員、大学院生、論文作成目的の学部学生向け

内　　容：図書館が提供する二次情報データベースの検索方法の指導

参加者からは、BA（Biological Abstracts）[OVID版]、CA on CD、Current Contents、Medline [OVID版]、ERIC、MLA、朝日新聞記事データベース、J-BISC、雑誌記事索引の申込があり、附属図書館新館1階のニューメディア・コーナーのパソコンを使い行いました.

＜Webspirs説明会＞

図書館の新しい二次情報データベースサーバにERLデータベース検索システムをインストールしました. これによりMLA、PsycLITのデータベースは図書館ホームページからWebspirsを利用して検索可能となりました. 6月からの試行サービスに先立って、Webspirsの利用方法を理解して頂くため、6月11日㈮、17日㈭に説明会を行いました.

遡及入力報告

中央館では平成10年９月から平成11年３月まで、外注による図書の遡及入力をしました。この７ヶ月での処理冊数は約６万冊にのぼり、閲覧室にあるほとんどすべての図書をOPAC検索できることになりました。新規受入分と合わせて、導入時約１万冊で始まったオンライン目録もいまや32万冊の図書データベースとなっています。

今後は膨大な書庫内の図書についても、遡及入力していく予定です。

岡山大学創立50周年記念図書館見学会

５月29日(土)、30日(日)の両日、全学公開事業の一環として図書館見学会を開催しました。学外の方々に平成９年完成の新館を中心に見ていただくことにし、コンピュータ化した検索コーナー、池田家文庫の貴重資料展示室を巡る、１日３回の説明付きツアーを実施しました。ツアー参加者は105名、フリーの見学者と合わせて380名の来館者がありました。

図書館講演会

総合情報処理センターと共催で、岡山大学附属図書館講演会が開催されました。

講演会は２度にわけて、いずれも図書館の大会議室を会場として行われました。

概要は次のとおりです。

第１回　平成11年１月25日(月)　15：00～17：00

演題　学術情報ネットワークの現状

講師　浅野正一郎教授（学術情報センター）

内容　SINETを中心とした学術情報ネットワークの現状と展望について

第２回　平成11年２月16日(火)　15：00～17：00

演題　電子図書館の展望

講師　原田　勝教授（図書館情報大学）

内容　図書館情報大学の電子図書館構想と、国内外の電子図書館化の現状と展望について

どちらもスライドをつかった講演で、図書館関係者のほかに、教職員や学生など、学外者21名を含む合計83名の参加がありました。

資生研分館からのニュース

５月15日、研究所公開が行われました。晴天にも恵まれて、約140名の一般市民の方々が、分館の見学に訪れ、中国明、清時代の漢籍文庫・日本近世紀の農書文庫・Pfeffer文庫等の貴重書の一部分（展示したもの）から新着雑誌までを興味深げに見学されました。

教官からの著書寄贈リスト（平成11年１月～８月）

次の方々から著書をご寄贈いただきました．ありがとうございました．

平成11年１月14日開催の附属図書館運営委員会において、今後図書館は本学教官（名誉教授を含む）の図書及び報告書等、著作物を寄贈により積極的に収集して学生等の利用に広く供することになりました．ご寄贈いただきました著作物は、OPACで検索できるほか、図書館報、ホームページに掲載して紹介します．ご理解とご協力をお願いします．

青山英康（共編）［医］
PPK（ピンピンコロリ）のすすめ――紀伊国屋書店，1998　（369.2/PI　鹿田分館・１階閲覧室）

上野裕久［名誉教授　養］
わが国市町村議会の起源――信山社出版，1998　（318.4/U　中央館・新館３階）

小川紀雄［医］
内科医のための臨床痴呆学　第二版――医学書院，1998　（493.7/OG　鹿田分館・１階閲覧室）

小川紀雄［医］
脳の老化と病気――講談社，1999　（491.3/OG　鹿田分館・１階閲覧室）

高山芳治［教］
自己実現力を育てる社会科の授業――大明堂，1989　（375.3/T　中央館・新館３階）

田坂賢二［名誉教授　薬］
New advances in histamine research――Springer, c1994　（491.5/T　中央館・書庫４層）

早津彦哉（共編）［薬］
環境衛生学――南江堂，1992　（498.4/K　中央館・本館２階）

平松惇（共著）［名誉教授　理］
電磁気学――共立出版，1996　（427/D　中央館・本館２階）

行安茂（編）［名誉教授　教］
H.シジウィク研究：現代正義論への道――以文社，1992　（150.23/S　中央館・新館４階）

行安茂［名誉教授　教］
自己実現の道徳と教育――以文社，1993　（375.3/Y　中央館・新館３階）

（敬称略　五十音順）

平成11年度展示会について

平成11年10月23日㈯から11月１日㈪まで、附属図書館特殊資料展示室で、岡山大学創立50周年記念・池田家文庫等貴重資料展「後楽園と岡山藩」を開催します。後楽園の変遷を示す絵図類や関係文書を展示します．詳細は図書館ホームページをごらんください．

会議

◆学外

11.4.27～4.28　第26回国立大学図書館協議会中国四国地区協議会（於　ホテルニュータナカ）
・国立大学図書館協議会、その他

5.25　平成11年度国立大学附属図書館事務部課長会議（於　東京医科歯科大学）
・大学図書館の当面する諸問題について

6.23～6.24　第46回国立大学図書館協議会総会（於　仙台国際センター）
・全体会議、その他

7.30　地域サーバ検討ワーキンググループ（於広島大学附属図書館）
・共同サーバ構築およびコンソーシアム形成の方向性等について

◆学内

11. 3.3　平成10年度第4回図書館運営委員会
3.18　平成10年度第5回図書館運営委員会
5.18　平成11年度第1回図書館運営委員会
6.7　平成11年度第1回広報委員会
6.7　平成11年度第1回池田家文庫等特殊文庫委員会
6.30　平成11年度第2回図書館運営委員会
7.7　平成11年度第1回二次情報データベース選択ワーキンググループ打合会
7.29　平成11年度第1回津島地区自然科学共用外国雑誌選択小委員会

研修

・平成11年度中国地区新採用職員研修
参加者　竹下啓行（11.4.6～4.9）
・平成11年度目録システム地域講習会（図書コース）
参加者　西村朋子、犬飼るり子、中山栄美子（11.6.16～6.18）
・平成11年度目録システム地域講習会（雑誌コース）
参加者　深水智子、本城曜子、松永さおり（11.6.21～6.23）
・新IRシステム及び新CAT/ILLシステム説明会
参加者　遠谷厚志（11.7.27）

編集委員会から

館長と事務部長の異動があったので、早速原稿をお願いした．館長は「21世紀の岡山大学構想検討委員会」と附属図書館、事務部長は「自己点検評価」との関連についての内容である．

「変革」を迫られている．古い資料も大切、新しいものも大切という「図書館」にとって、何を変え、何を変えてはいけないかの見極めは重要である．

岡山大学附属図書館報「楷」　No. 29　平成11年10月1日
発行人　石田常亞　編集　広報委員会　表紙デザイン・レイアウト　清水國夫
岡山大学附属図書館発行　〒700-8530　岡山市津島中三丁目1-1　電話086-252-1111